



TITLE:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 52

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 52. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1957, 52: 49-53

ISSUE DATE:

1957-01-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186818>

RIGHT:

# 京都大学瀬戸臨海実験所振興會

## 水族館月報

No.52 増刊号

1956.12月(1957.1月8日)

### 録 事

本年最後の月報を発行するにあたり、委員茲に職員各位の御指導と御協力を感謝すると共に、新玉のよき年を迎え、各位の御協力を以て更に一段の発展あらんことを冀うものである。

12月に入るや、海も荒れ気候も寒冷の度を増してきたに抱らず、UNESCO委託の田辺湾海洋調査は依然として熱心に続行された。京都大学動物学教室の波部忠重助手を始め高松史朗、築内俊次の2学生は11月28日より12月7日まで、卒業研究を兼ねて来白、田辺湾沿岸帯の湾奥より湾口にいたる動物相の変化を調査し、奥野良之助大学院学生は冬期における磯魚の観察のため12月1日より14日まで、横須賀市立博物館長羽根田弥太博士は12月4日より7日まで発光生物の調査に、東北大学教育教養部の畑井小虎教授は女学生と共に、19日より25日まで連日の烈風を物ともせず湾内周辺の海岸の地質調査や汀砂・貝類の採集を続けられた。

昭和13年設置のBタービンポンプは長年使用のため要部の腐蝕甚だしく、使用に耐えなくなつたので、京大技術課脈部技官のあっせんにより要部砲金鑄鉄製、羽根青銅製の2段タービンポンプ1台を大阪の橋本重工業KKに発注した。

5日より水族館の第22及び第28水槽に保温装置を施し、熱帯魚や幼魚はカメを移した。

24日より南水槽室の床を1寸厚に塗りかえ、水はけをよくした。同時に博物館玄関の破損箇所も修理した。

31日館内保温のため原式オガ屑ストーブを購入し、入口傍に設置した。

10月発行された内海委員の海岸動物図鑑に引きつづき、山崎委員の手になつた「水族館のはなし」が小学生全集の第86集として、今月、保育社より発行された。同書は46版210頁定価150円であつて、本水族館で多くの人々に親しまれている動物を中心にして小学生向きに平易に且つ興味深く説かれたものであつて、低学年の好評を受けるものとなるであらう。

## 業 務 概 況

### ◎ 12月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累計	本月分計	累計	本月分計	累計
大人	2792	66955	7165	123662	9957	190617
小人	86	5625	74	3412	160	9037
団体	2589	103015	—	—	2589	103015
合 計	5467	175595	7239	127074	12706	302669
無料入場者	京阪神戦災孤児		365名 他		387	1050
団 体	一 般		37組, 学 生		9組	計 48組

### ◎ 12月の 事業収入 (今年度累計)

観覧券売上金	240,750	5,486,335
予金・積立金利息	—	49,082
雑 收 入	60	11,130
興 業 押 下	—	100
計	240,810	5,546,647

×

×

×

×

◎ 12月の支出  
水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	141,349	68,952.9	年々手当支給
会費	6,280	68,507	生駒委員 事務連絡旅費
備品費	8,380	185,600	原式オカスト-ブ、木樫
消耗費	19,880	98,476	
車業費	41,978	383,231	
維持費	33,500	113,481	土間塗習、壁修理等
其他諸経費	13,484	244,932	忘年会費用分担、キルカバー
立金	42,840	934,692	C原永
合 計	307,691	271,844.8	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	4,000	80,565	波野氏研究費、備船料
奨学金	5,000	45,000	
備品費	1,500	46,640	植物生態学会誌バックナンバー
刊行費	—	307,375	
役務費	—	621,25	
合 計	10,500	541,705	

民物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	12,675	56,235	年々手当支給
備品費	80,000	88,500	双眼実体顕微鏡
消耗費	1,620	64,55	海藻標本台紙 480枚
役務費	1,550	25,810	玄関修理
合 計	95,845	177,000	

臨時費

支出なし

支出合計 (今年度累計)

水族館経費	307,691	2,718,448
実験所経費	10,500	541,705
伝物館経費	95,845	177,000
臨時費	—	367,120
計	414,036	3,804,273

◎ 12月末現在高

前月からの繰越	2,018,784
今月の収入合計	240,810
今月の支出合計	414,036
現在高	1,845,558

◎ 前年度との比較

	1955	1956	増減
入場者数	126,251	127,061	+ 81
売上金	233,057	240,750	+ 7,693
支出金	931,915	414,036	- 517,879

水族館記事

- ◎ 先月30日入槽のツバメウオ1匹が1日に死亡、今月30日にも又1匹入ったが翌日死亡。深戸魚のようにこの魚は水槽では長持ちしないのが例である。
- ◎ 5, 10, 11, 13日の4日間にわたってアカウミガメの子6匹死亡。
- ◎ 8日マツカサウオ25匹入槽。
- ◎ 全日4貫口もあるドチザメ1匹入槽。 } いづれもツボ網漁
- ◎ 13日アミモンガラ1匹死亡。
- ◎ 16日キグチウツボ5匹、シロベリウツボ3匹堺の漁師より購入。昨年の暮も同様に2種を取得したのも奇縁である。

- ◎ 16日 クロガシラウミヘビ 1匹死亡。
- ◎ 17日 モンガラカワハギ 1匹死亡。
- ◎ 20日 イソモンガラ 1匹死亡。
- ◎ 25日 カノコイセエビ 1匹入槽。
- ◎ 26日 タイマイ 1匹入槽。
- ◎ 29日 コバンザメ 1匹死亡。
- ◎ 31日 近畿大学の養魚場より ハマチ 15匹を購入。

## 資 料

- ◎ 12月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(21)	6	5	10
気 温 (°C)	<u>7.5 ~ 13.8</u> 11.6	<u>8.9 ~ 10.9</u> 9.6	<u>7.0 ~ 13.3</u> 9.1
水 温 (°C)	<u>14.9 ~ 18.2</u> 17.2	<u>13.5 ~ 15.2</u> 14.3	<u>11.8 ~ 15.9</u> 13.5
比 重	<u>25.1 ~ 25.8</u> 25.5	<u>25.8 ~ 26.2</u> 25.9	<u>25.8 ~ 26.2</u> 26.0

但し { 気温は南水槽室  
水温 } で9時測定  
比重 } はNo. 25水槽

## 来 訪 録

12月8日 筒井大阪市立伝物館長の紹介で大阪港振興株式会社  
常務伊藤和夫氏来館。大阪市の築港付近整備の一環として  
水族館新設計画のため。

昭和32年1月8日		(No. 52)
編集兼 発行者	内 海 雷 士 夫	
発行所	瀬戸臨海実験所振興会 和歌山県白浜町 (Tel. 白浜 515)	